

▶ S-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施して ◀

大分県宇佐市消防本部

1. はじめに

当市は、大分県北部に位置し、北に周防灘が開け、南は立石山・人見岳等標高1,000m弱の山岳を境に玖珠町・由布市に、西は中津市に、東は豊後高田市・杵築市・日出町・別府市にそれぞれ接しています。面積は約440km²、南北30km、東西20km、標高差1,000mの広大な地勢で、海浜地域から平野部、市街地、中山間地域、内陸盆地及び大規模な森林地域まで多様な地域構成となっております。

また、平成25年5月30日には、国際連合食料農業機関（FAO）の国際会議において本市を含む県下6市町村が世界農業遺産に認定されました。世界農業遺産とは、次世代に受け継がれるべき伝統的な農業・農法等の世界的にも重要な農業システムを認定するもので、平成30年12月時点では世界21ヶ国57地域が認定されています。

さらに、全国約44,000社ある八幡宮の総本宮である国宝の宇佐神宮や、相撲界では不滅の69連勝という大記録を打ち立て「昭和の大横綱」と呼ばれた双葉山関の生誕の地があるなど、自然、歴史・文化が豊かな地域となっております。



2. 消防団の概要

昭和42年7月の宇佐市誕生により、各町消防団が合併し、宇佐市消防団の名称となりました。その後、平成17年の市町村合併に伴い、旧いんないまち院内町・あじむまち安心院町消防団が加わり現在の体制となりました。平成31年4月1日現在、団本部と21分団48部で構成されており、条例定数1,163名に対して実員1,053名が在籍し、うち女性消防団員が14名となっています。

3. S-KYT(消防団危険予知訓練)研修開催の経緯

現在、災害が大規模・多様化し消防団に対するニーズが高まっている中で、「自らの地域は自らで守る」という崇高な郷土愛精神を全うするには、公務災害を未然に防ぎ、団員自身の安全と健康を確保することが必要不可欠であるため、公務災害を出さないことをスローガンに日々訓練等を実施しています。その中で指揮者の位置にある団員に専門的知識を習得してもらうことを目的とし、定期的に消防団員等公務災害補償等共済基金の助成・後援を受けS-KYT訓練を行っています。

4. S-KYT (消防団危険予知訓練) を実施して

令和元年9月29日(日)に班長以上の階級にある者に対して研修を実施し、各部より1名ずつ、計48名の団員が受講しました。S-KYT指導員の講師からは、いつ・どういったときに・どのような内容の公務災害が発生するかという具体的な説明をわかりやすくしていただき、改めて公務災害を未然に防ぐことの重要性について認識しました。

その後、実技へ移り、指差し呼称・指差し唱和、健康KYといった方法で消防団活動の現場に潜む危険への感受性を鋭くする訓練を行いました。個人の実技訓練終了後、今度は班に分かれて役割分担を行い、班ごとに事例について意見交換を行いました。所属する分団が違うことや、年齢に幅があることから、最初は控えめな様子で始まりましたが、時間が進むにつれて活発な意見交換へと発展していき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

講習終了後団員からは「日頃行っている訓練では得ることができないことが習得できた貴重な訓練になりました。今後自分の班に持ち帰り、他の団員にも共有し、今度は自分の所属する分団で行ってみたい」といった意見が寄せられ、非常に良い講習であったと考えています。



5. 今後の取組について

今回の研修は、今後当市消防団の幹部となっていく団員に、若い団員を指導していく上での安全管理指導の重要性について認識させることができた有意義な研修であったと思います。また、当市消防団としましても、今まで以上に安全管理の徹底を行って公務災害ゼロを継続し、「安心・安全なまちづくり」の土台となるよう訓練を継続していきたいと思っています。

最後になりますが、今回の研修に当たりご協力いただきました消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様、講師の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。



